

本を扉にして
まちへ出よう

～ マチの新しいカタチ ～

第五回 レポート

チャレンジしてみたことを
シェアしよう

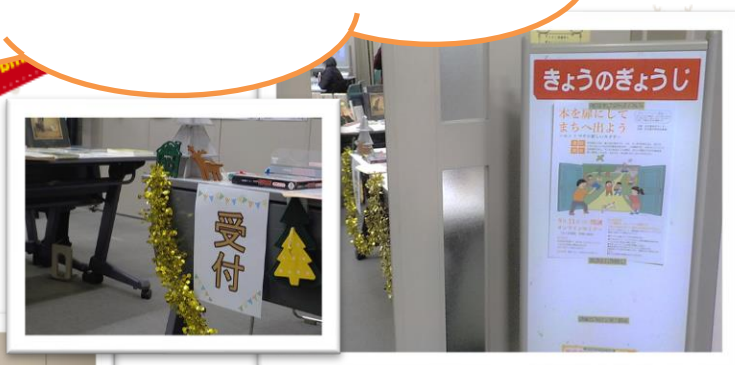
日時：令和3年12月18日

時間：13時30分-15時30分

参加者：12名



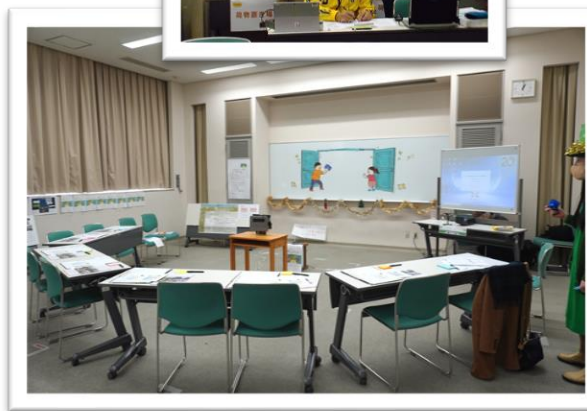
楽しく学んできた連続講座も、今日が最終回。
今日は皆さんの発表がメイン。前回までに立てた企画を、実践するためにチャレンジしてみたことを、お一人ずつ話します。みなさんがどんなことをシェアして下さるか、講師陣もワクワクしながら、最終回スタートです。



サンタ準備中！



クリスマスのイメージで
飾り付け

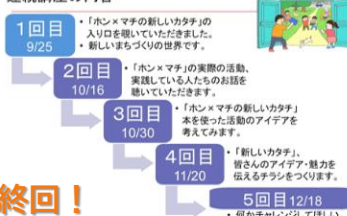


発表の舞台は整った！

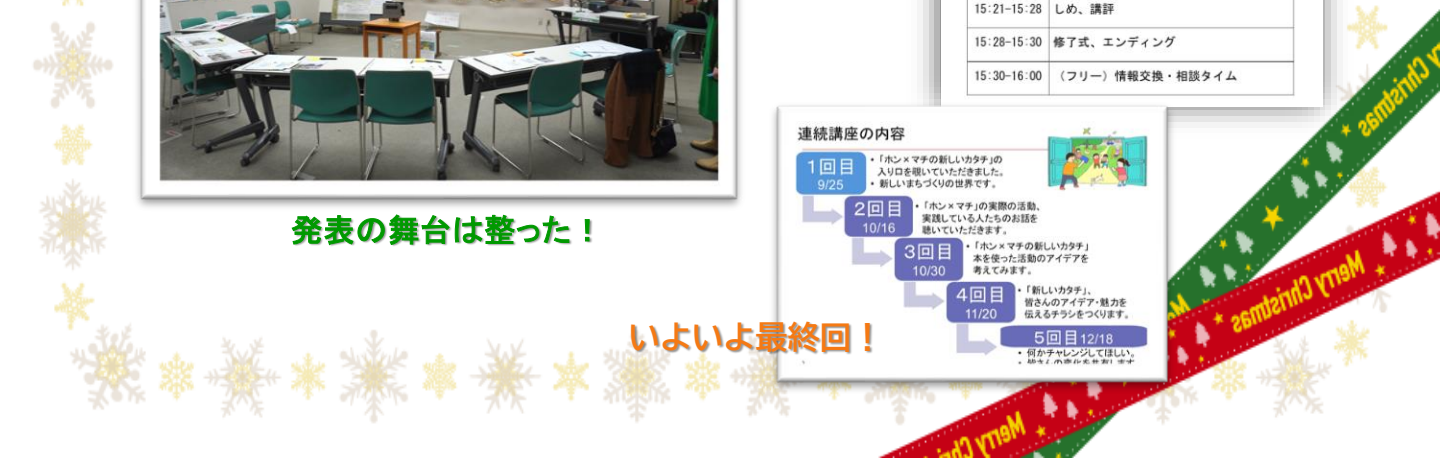
第5回目 進行表

時間	内容
13:30-13:33	導入あいさつ
13:33-13:45	私の一冊 自己紹介 (アイスブレイク)
13:45-13:51	本日の流れ 発表について
13:51-14:26	発表1 フェリッ'したことをシェアしよう
14:26-14:36	休憩 (付箋をはる&付箋を確認する)
14:36-15:21	発表2「この付箋詳しく聞かせて下さい」
15:21-15:28	しめ、講評
15:28-15:30	修了式、エンディング
15:30-16:00	(フリー) 情報交換・相談タイム

連続講座の内容



いよいよ最終回！



熱田図書館にて 「持ち寄り本」の展示が！

本日の会場は、共催である熱田図書館。会場の隅に本の並んだ一角が…。それはなんと、これまで4回の講座の冒頭で、皆さんが、毎回のお題に対して紹介してくれた本たち…！

図書館の司書さんが展示してくれていたのです。

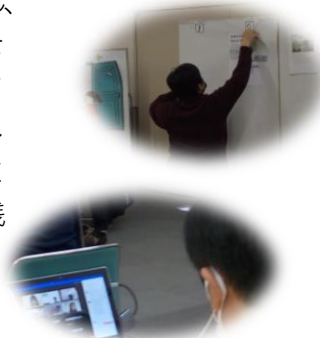


「あの人が言った本だ！こんな表紙なのね。」「意外と薄い本なんだ、これならすぐ読めそう。」と、「初めて見たけど初めてじゃない」本との出会いに、不思議なときめきを覚えました。

さあ、始まりますよ！

本日は発表会。こんなふうに、みんなで半円の形で発表者を囲む舞台にしてみました。そして、舞台右にはオンライン参加の皆さん。

サンタ姿の司会は池田さん、今日もオンラインチームを先導してくれるのは筒井さん、全体進行をサポートしながら掲示や写真撮影にまでも活躍してくれるのは浅野さん。



これまで登場してくれた講師陣が、総力で運営する本日の会。誰が講師でもなく、主役は受講生。お互いがお互いを支え合う、そんな本日の内容になっていますよ！



アイスブレイク 本日のお題

最初は恒例の、本を紹介してくれるこのコーナー。

「人は、自己紹介をするときよりも、自分の好きな本を紹介するときのほうが、饒舌になる。」と、毎回感じました。その熱意が講座中にも影響していたことは確かでしょう。

毎回のお題、講座の内容とも連動していて、ある意味講座を貫くテーマでもありました。

最後のテーマは、受講生から出していただいたものです。皆さんとこの講座で繋がれたのも縁。自分が今このまちに住んでいることも縁。すべてのことがご縁であり、それが自分の感性、思い、人生を作っていくということ。



例えばこんな本 「ライオンのおやつ」「物語と歩いてきた道」「やくそく」「サンタクロースっているんでしょうか?」「講義ライブだから仏教は面白い！」

あなたの進捗、何信号？



発表の仕方		
地点	概要	発表例 ・発表には、○と△の両方を入れてください ・写真などもあればお見せください
青	企画の実施、 できました！ (どんなに小さい実践でも、できた方はここでです！)	○こんなことが、できました！ (チャレンジしたこと、誰に何を届けられたか) △次は、こういうところをもっとよくしたい！ (次なる目標)
黄	実施に向けて 進んでいます！	○ここまででは、できました！ (チャレンジしたこと、誰にどんなアクションをしたか) 例・場所を使わせてもらえるよう、依頼した ・こんな企画と一緒にやらない？と仲間づくりの声掛けをした ・チラシを完成させて、誰かに渡した ・チラシを置いてもらえるか、施設やお店などに尋ねてみた ・本やその他の道具を提供してくれるか働きかけた ・SNSを立ち上げて誰かと繋がった
赤	これから企画 づくりします！	△ここがクリアできたら実践できそう！ 諸事情これまでの講座を欠席され、企画が具体的になっていない方は、どんなイメージをお持ちか、語ってください。 可能なら、企画内容・キヤッチフレーズ・いつどこで・対象者は...といったことを書いてみてください ・他の方の企画のお手伝い申出や、情報提供も歓迎

発表の仕方について説明してくれるのは、青赤黄の信号機トリオ。実はこの講座、初回と二回目にも、登場しているんですよ。皆さん覚えていますか？

受講生は、自分の企画の進捗状況を発表した後、信号でいうとどの色か、段階に応じて選んでもらいます。

そして、発表を聴く側は、「それならこんなことが手伝えるよ！」「いい人、いい場所、知ってますよ！」という、実践を後押しできるアイデアや情報を付せんにも書いて、その方のチラシの下に貼っていきます。

発表して...



付せんを貼って...

付せんを書いて...

ジャン...!



付せんを深掘り「詳しく聞かせて！」

貼ってもらった付せんの中から、「これもっと詳しく聞きたい！」というものを選んで、それを書いた方を「わたしが選んだのは、〇〇さんです！」と指名。前へ出て、対談のように話してもらうのですが、この時間がとっても面白かった！

誰が誰を選ぶのか?! どんどころに惹かれたのか?! そして、どんなお話を二人がされるのか…。指名された方は、「えっ! 私?!」とドキドキしながらも前へ出て、その方の企画の力になろうとアドバイス。とってもほのぼのして素敵な様子をみんなで見守るといふ、温かい時間が流れました。

私が選んだのは…

(ドキドキ…)

〇〇さんです!!

えっ わたし~?!

これってどういうことですか?!

企画実施の際は是非お手伝いして下さいね(約束♡)

エンディング

あっという間に時間は過ぎて、いよいよエンディング。これまでの皆さんの頑張りを見てきたチームホンマチの講師たち、そして熱田図書館の司書さんからも、皆さんにエールが送られました。



オンラインに始まり、後半はリアル開催。一方、中には、就職活動を控えた学生さんや、子育て孫育てで自由に出かけられない等、色々な事情がある方も参加できるようオンラインも継続。どちらの形でも一緒に学んできたみんなと、最終回の集合写真。

最後は、修了証の授与。この講座らしく、本のしおりの形をした修了証。これまで小道具面等でこの講座を支えてくれた、器用な都市センタースタッフの力作です。受講生の皆さんが末永く手元に置き、この講座のことを思い出し、励みにするきっかけとなってくれたら、という願いを込めています。



チームホン×マチより

「本×まちづくり」というテーマに「オンライン」という開催方法など新たな試みを取り入れ、チーム「ホン×マチ」で講座の企画を練った日々が昨日のように思い出されます。最終日には数々の「本×まちづくり」の活動案が受講生の皆さんから発表され、すぐにでも実現できそうな発表に感動しました。ぜひ、皆さんとつながっていきたいですね。（浅野 健）



本好きな受講生の皆さんとともに講座を進めるなかで、本が持っている「人と人をつなぐ力」に改めて気づかされました。それは、ウィズコロナ時代に求められる大切な役割と言えます。ぜひ本を扉にして身近なまちで新しい出会いが生まれるような「本×まちづくり」にチャレンジして下さいね。応援しています！（池田 哲也）

講座の運営協力を始めて対応させていただいた。「ホン×マチ」という難しいテーマで、かつ、リモート環境での実施。最初は不安が勝ったが、企画者の思いと運営メンバーに恵まれたおかげで良い議論ができ、自分も多くの刺激を受け楽しめた。振り返りシートの声にも助けられた。結果、良い講座に参加できたことに感謝しかない。皆さんありがとうございました。（筒井 康史）



『公園のベンチでひとり読書する人。ふと思いついたように顔をあげる。ぐるりを見回して、人のいる方に歩き出す。』

「チームホン×マチ」として講座を企画する中でずっと思い描いていた光景です。本に集中するのも楽しい。でも本を介して人とつながるのも楽しい。ホン×マチ講座が、きっかけや後押しの一助になれていたらいいな。

（井村 美里）

講座は企画から1年、無事（オンライン&リアル）に終了し、参加者の皆さんはタイトル通りに『本を扉にしてまちに出・ま・し・た』

特に最後の発表は自信にあふれ、お互いへのエールの交流も素敵でした。

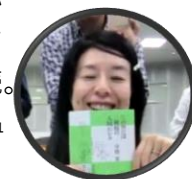
企画側も、並走のはずが楽しいランニングで、本は、まちへの扉だ！と、前よりもっと本や人と出会いたい。それが楽しみになっています。（千葉 順子）



街は誰かの好きで作られている！そう感じた講座でした。本もそう。家で本を読む時間を持てるのは、きっと住んでいる街が穏やかだから。それが無くなるように本と一緒に街作りしていきましょう！だってその穏やかさは住んでいる僕らが作ってるんです。みなさんのアイデアに触発され、僕ももっと色々やっていきます。また繋がれる事を楽しみにしています！（服部 浩太郎）

はじめて自分で企画した連続講座。「本とまちづくりをテーマにしたい！」というところ、最初は「どういうこと？無理じゃない?!」との声も。誰か講師をやってくれる？人は集まる？と、心配は尽きず。始まってからも、毎回試行錯誤の連続。でも、絶大頼りになる講師陣と都市センターのスタッフたち、受講生の皆様の温かい言葉に支えられ、感動で泣きそうになったこと数知れず。皆さんに大感謝。

（横畑 実知代）



スペシャルサンクス：ZOOMの操作を担当してくれました！

受講生の皆さんや運営スタッフのご協力のおかげで、大きなトラブルなく終了することができました。「オンライン講座なので参加できました！」とのお声もいただき、とても嬉しく思っています。皆さんのこれからの活動に期待しています！（寺田 隆彦）

受講後の感想

「講座を受けたことで、人生に変化が起きた！」そんなふうになっただけいいなと思って講座を作っています。

皆さんの感想から、今回、そういうことが起きたかな、と感じています。微力ながら、講座によって、人が、まちが、いい方向へ変わって行ける手助けができたらいいなと思います。



講座を全体を通して

- ・「何をやる講座？」というイメージで全日程参加したが、大変エキサイティングな内容でした
- ・実践に重きを置いた、**充実したプログラム**だった
- ・**目標設定**の仕方・そのための**プロセス**、実行への**アドバイス**、大変参考になりました
- ・例えて言うと、**違う扉が開かれたような**気が、今しています
- ・当初は「**マチ（地域）**」という視点で本と人を捉えることに戸惑いました。けれど、受講するうちに、**公共図書館や学校図書館が存在しているのはマチ・地域**なんだ、その中でどう活動を広げていけばいいのかという視点で考えることの大切さに気が付いたのは、講座を**受講した最大の収穫**でした。
- ・**まちづくり**の考え方、**本が持つ可能性**を知ることができた
- ・受講を申し込むのを迷った8月が、今では遠い日のよう。**えいや！で申し込んでみて本当に良かった**です。
- ・自分にはチラシ作りなど結構ハードルが高く、また人前で説明することも苦手で、**毎回終わるとどっと疲れ**が出ていました。**でもとても楽しかった**です
- ・本による自己紹介は、個性が出て楽しかった。**ぜひ順次読んでみたい**と思う本がたくさんあり、**世界が広がる嬉しさ**を感じています

今後の目標

- ・他の参加者の企画や、オープンチャットで共有した一つ一つが興味深く、**やってみたいことをたくさん**見つけることができた
- ・私の企画には**まだまだ課題**もありますが、**いつか実現**させてみたい
- ・（講座でやった）チラシ作りをきっかけに、**デザインの面白さに気づきました**。届けたい層に合わせたデザインやツールの選択が大切だと学びました。作ったものをSNS等活用して多くの人に知ってもらうにはどうすればいいか考える作業に**すごく興味**を持ちました。今後このような点でまちづくり活動をサポート出来たらと思います。

リアルとオンラインの併用

- ・オンラインとリアルの**いいとこどり**だった。
- ・子どもがいても参加できたのは、オンライン参加も可能だったからだと思います
- ・回を重ねるごとにオンラインの進行がスムーズになった、でも**やっぱりリアル**が楽しく充実していた！
- ・ハイブリッド開催になってから、**会場の盛り上がり**に、**オンラインだと少し蚊帳の外**というときも出てきていますが、皆さんが楽しんで話し合っているのが伝わってきて**羨ましかった**です。
- ・子育て中、体の状態によって**外出が難しい人にも間口を広げる**ために、オンライン併用のイベントは続けてほしい

他の受講生・スタッフへ



- ・老若男女参加されいていて、**皆さんとのご縁**を感じます。
- ・普段なら**絶対に出会うことのない方**と仲間になり話せたことが嬉しいです！
- ・スタッフのお力が大きかった。ZOOMでも講座を**盛り上げて**くれている**気持ちは、しっかり伝わり**ました。
- ・オンラインとの**併用開催**にも何の違和感もなく、スタッフの皆さんには感謝です。